

事例番号:280186

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第四部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 6 日

19:39 陣痛発来のため当該分娩機関入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 6 日

20:55 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔開始

妊娠 40 週 0 日

9:10 経膈分娩

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:40 週 0 日

(2) 出生時体重:2800g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:pH 7.27、BE -3.3mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 1 日 先天性色素性母斑

生後 6 日 退院

2 歳 1 ヶ月 自立歩行できず

3歳 左優位の四肢痙性麻痺

(7) 頭部画像所見:

生後2ヶ月 頭部MRIで頭蓋内に異常なし、黒色症の所見なし

6) 診療体制等に関する情報

(1) 診療区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医4名、小児科医3名

看護スタッフ:助産師3名

2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与する異常は認められず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠39週6日に破水感のために外来受診した際の対応(内診、分娩監視装置装着、バイタルサイン測定、採血実施、抗菌薬投与)、および診察にて羊水流出なしと診断し、超音波断層法実施後に退院としたことは一般的である。

(2) 妊娠39週6日、陣痛発来のため入院としたこと、および分娩経過中の管理(分娩監視装置連続装着、妊産婦の低血圧に対し昇圧剤投与、B群溶血性連鎖球菌陽性に対し抗菌薬投与)は一般的である。

3) 新生児経過

出生直後、およびその後の新生児管理(観察項目、検査)は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

脳性麻痺発症に関与すると考えられる異常所見を見出すことができない事例を集積し、疫学調査や病態研究等、原因に解明につながる研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。